公開講座

日米における古くからの農法から農業のサステナビリティを学ぶ

日本の九州・阿蘇地方に広がるススキ草原は千年以上の昔から、そこに住み農業を営む人々が牛馬を飼い、草を利用するために手を加え、維持されてきました。アメリカ南西部半乾燥地域では、原住民によりアガベ類植物が伝統的に栽培・利用されています。ススキおよびアガベは、現在、バイオエネルギー作物候補としても注目されています。そこで、日米異なる環境下の成立した永続的農地生態系を知るとともに、将来の急激な気候変動に、食料やエネルギー生産はどのように対応したらよいかを考えます。

日時 平成 29 年 8 月 8 日（火）13：30 ～ 16：30（開場　13：00）

場所 北海道大学 学術交流会館 小講堂（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks

参加無料

プログラム

講演 1「食料とエネルギーの持続生産の必要性」

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
教授　山田敏彦

講演 2「北米原住民が利用してきた耐乾性多肉植物アガベの可能性」

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
特任准教授（ブリガムヤング大学准教授）ライアン・スチュワート

講演 3「伝統的な草原管理による生態系サービスの向上」

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター
上級研究員　小路　敦

講演 4「日本古来の草原管理は地球温暖化の緩和に貢献してきた」

愛媛大学大学院農学研究科
准教授　当真　要

主催：北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
共催：北海道大学 大学院国際食資源学院
問合せ：北方生物圏フィールド科学センター　山田 敏彦　011-706-3644　yamada@fsc.hokudai.ac.jp